

1 単元名 武道(柔道)

2 目標

- 技ができる楽しさや喜びを味わい、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開することができる。(運動の技能)
- 柔道に積極的に取り組み、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ろうとしている。(運動への関心・意欲・態度)
- 柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解している。(運動についての知識・理解)
- 課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。(運動についての思考・判断)

3 単元について

(1) 教材

柔道は、嘉納治五郎が我が国の伝統的な柔術を集大成して創始したものであり、その目的は相手との稽古を通じて身体や精神を鍛練修養し、それによって自己を完成し社会に役立つ人間を育成するところにある。身体面では、基本動作や対人的技能を自己の能力に応じて身に付け、さらに自分の得意技を習得することで楽しさや喜びを味わうことができる。精神面では、相手を尊重し感謝の意をもって稽古に取り組むなど柔道の教育的な意義を強調し、心身の発育・発達への効果を重視する。また、伝統的な考え方や行動の仕方を守ろうとする態度を身に付けさせることをねらいとしている。

(2) 生徒の実態

| | 好き・得意である | どちらともいえない | 嫌い・苦手である |
|------------|--|---|----------|
| 武道が好き | 16 % | 51 % | 33 % |
| 武道の経験 | 経験がある 24% (うち柔道 12%) | | 経験なし 76% |
| 柔道に対するイメージ | (良い) ・技がかっこいい ・面白そう ・見ていて楽しそう ・興味がある ・技ができたら凄い | (悪い) ・つまらなそう ・怪我をしそう ・役に立たない ・必要ない ・寒い ・痛そう ・怖い | |

本学級の生徒は、体を動かすことが好きな生徒が多く、授業においても意欲的に取り組むことができる。しかし事前アンケートから、「痛そう、つまらなそう、怪我をしそう」というマイナスなイメージをもつ生徒が多い傾向にある。今年度、本学年の柔道部員が練習・試合中に骨折するという事故が2件発生した。授業と運動部の練習中における事故発生の関連性は低いとされるものの、未経験者の数や心身の発達段階を踏まえ安全に十分配慮した練習内容を取り入れ授業を進めたい。また、器械運動の授業を終えて、基本的な技である前転・後転の技能においても、着手の仕方に課題が見られる生徒が多く見られる。

(3) 指導観

本単元においては、基礎基本の徹底を図る反面、必要以上の反復練習をなくし、飽きさせない指導に配慮し、簡易な試合を取り入れた動きや対人的技能への発展を狙いながら学習を行っていく。生徒の実態からわかるように、柔道は多少の痛みを伴うコンタクトスポーツであることから、生徒の意欲の低下やつまずきが予想される。その改善の手立てとして、グループ学習の中でお互いに補助し合い、良さを認め合いながら、生徒一人一人の技能の向上を図り、できるようになった達成感を味わえるような学習の場や教材の工夫をしていく。また、技を習得している生徒や柔道部の生徒をスマールティーチャーとして活用できるようにすることで、生徒の称賛する場面を多く設定したい。さらに、本単元で学んだ礼儀・行動の仕方を日常生活の具体的な場面においても生かすことができるよう指導していきたい。

4 単元の評価基準

| | 運動への関心・意欲・態度 | 運動についての思考・判断 | 運動の技能 | 運動についての知識・理解 |
|--------------|--|--|--|---|
| 学習活動に即した評価基準 | ① ◎常に礼儀正しい態度で関心をもって学習にのみ、柔道を学ぼうとしている。 ② 用具の準備や後片付け、審判など分担した役割に◎積極的に取り組もうとしている。 ③ 練習や簡易な試合において、◎常に自他の安全に留意して行動しようとしている。 | ① 仲間と協力して考え、教え合いながら、◎常に課題の解決に向けた方法を見付けようとしている。 ② 練習や簡易な試合を通して課題を発見し、◎進んで修正している。 ③ 学習した安全の留意点を、練習や簡易な試合の場面に◎適切に当てはめている。 | ① ◎常に相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができる。 ② 固め技の基本となる技や簡単な技の入り◎安定してでき、約束練習や簡単な試合ができる。 ③ 投げ技の基本となる技や簡単な技の入り◎安定してでき、約束練習ができる。 | ① 柔道の歴史や特性、礼法的重要性について理解し、◎具体的にカルテに記入することができる。 ② 自己の課題を解決するための◎具体的な取り組み方を、カルテに記入することができる。 |

◎は十分に満足できる状況

5 指導と評価計画（10時間扱い） 本時は○印

| 段階 | 時間 | 学習のねらいと活動 | 評価計画 | | | |
|-----|---------|---|------|---|---|---|
| | | | 関 | 思 | 技 | 知 |
| はじめ | 1 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">柔道の特性や学び方を知り，単元の目標を立てる。</div> 1 オリエンテーション ・柔道の特性やねらいを確認し，学習の進め方や見通しを立てる。 ・柔道の歴史と成り立ちや，基本的な技の名称や行い方を学習する。 ・正しい柔道着の扱い方を知る。 ・伝統的な考え方や礼法を知る。 ・安全面での留意点を知る。 | ① | | | ① |
| なか | 2 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">相手の動きに応じた基本動作と技を身に付けて楽しむ。</div> 1 基本動作を身に付ける。 ・正しい姿勢と組み方を知る。 | | | ① | ① |
| | 3 | 2 様々な受け身を身に付ける。 ・前回り受け身（ペア練習：互いの形を確認し合いながら交代） | | ① | | |
| | 4 | ・後ろ受け身（長座，中腰，立位） ・横受け身（ペア練習：受取1分間交代） | | | ② | ② |
| | ⑤ 本時 | 3 固め技を身に付ける。 ・けさ固め ・横四方固め }（ペア練習：受取1分間交代） ※受け身や固め技の技能を習得する際には，全体練習で基本動作を身に付けたのち，技能の段階に応じて，ペア練習やグループ練習（3人一組），ゲーム要素を含んだ練習へと発展させていく。 | | ① | ② | |
| | 6 | 4 身に付けた技を用いて，簡単な試合を楽しむ。 ・様々な体勢からの抑え込みゲーム（1セット試合45秒，休息15秒） | ② | ③ | | |
| なか | 7 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">投げ技の基本となる技を身に付けて楽しむ。</div> 1 相手と組んだ時の基本的な動作を身に付ける。 ・崩し ・進退動作（すり足，歩み足） }（ペア練習：受取1分間交代） ・体さばき | | | ① | |
| | 8 | 2 投げ技の基本技を身に付ける。 ・膝車 ・支え釣り込み足 }（グループ練習：受取1分間交代ローテーション） ・体落とし ※投げ技の技能を習得する際は，3人一組のグループ練習を行う。 | | ① | ② | |
| | 9 | | ③ | | ③ | |
| まとめ | 10 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">授業を振り返り，次年度に向けて学習のまとめをする。</div> 1 各グループごとに授業を振り返り，学習カルテに意見をまとめる。 2 それぞれのグループで出た意見を発表し，全体で学習を振り返る。 3 個人で自己評価を行う。 | | ② | | ① |

6 本時の学習

(1) 目標

- 仲間と協力して考え，教え合いながら，課題の解決に向けた方法を見付けようとしている。
(運動についての思考・判断)
- 固め技の基本となる技や簡単な技の入りを用いて，約束練習や簡易な試合ができる。
(運動の技能)

(2) 準備・資料

- ・実技教科書，柔道着，ミニボード，ボードマーカー，掲示資料，タイマー

(3) 展開 (5/10)

| | 学習内容・活動 | 指導上の留意点◎評価 ☆論理的思考能力の育成の手だて |
|------------|---|---|
| はじめ 10分 | <p>本時の目標 相手の動きに応じた抑え技の入り方や、返し方を身に付けて、攻防を楽しもう。</p> <p>1 活動場所に集合する。 ・学習の準備をする。 ・補強運動を行う。 ・整列（正座）、あいさつ（座礼）をする。 ・健康観察を行う。</p> <p>2 学習課題と内容を確認する。</p> <p>相手の動きに応じた抑え技の入り方や、返し方を身に付けて、攻防を楽しもう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 全員が協力して迅速に場の準備ができるように、声をかけるとともに、場の安全を確認する。 ☆ 基本の動作が定着していない生徒には個別に指導し、自分の技能の習熟度に合った補強運動に取り組めるよう支援する。その際に、T1、T2がお互いの立ち位置を考え、全体を観察できるように配慮する。 ・ 怪我の発生率が高い種目であるため、健康観察と補強運動の徹底に努める。 ・ 学習課題を確認し、それぞれがねらいや目標をもって活動に取り組めるよう支援する。 ◎ 学習の準備や自分の技能にあった補強運動に、意欲的に取り組んでいる。（観察） |
| なか 35分 | <p>3 固め技の入り方を身に付ける。 ・固め技の相手の態勢に応じた入り方を各グループで考え、練習を行う。（話し合い2分、練習5分）</p> <p>4 固め技の返し方を身に付ける。 ・相手の動きや態勢に応じた固め技の返し方を各グループで考え、練習を行う。（話し合い2分、練習5分）</p> <p>5 全体で意見を共有する。 ・グループで出た意見をミニボードにまとめ、全体で意見を出し合い共有する。</p> <p>6 身に付けた固め技への入り方や返し方を用いて、簡単な攻防（「受」が仰向け姿勢からの抑え込みゲーム）を行う。</p> <p>〈ルール〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1セット45秒（15秒で選手交代） ・3人1グループ編成 ・3人のうち二人がゲームを行う。一人は審判係として、周囲の安全を確認しながら、抑え込みの判定を行う。 ・抑え込みが10秒成立した場合、態勢を整えて、時間の中で、繰り返し攻防を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 固め技における効果的な入り方や、危険な入り方について問いかけ、各グループで考えて学習カルテに記入するようにする。 ・ 相手の様々な態勢に応じた効果的な返し方や、危険な返し方について問いかけ、各グループで考えて学習カルテに記入するようにする。 ・ 各自の役割を自覚し、意欲的に活動できている生徒に対しては賞賛の声をかけ、学び合う雰囲気を全体に広げるよう支援する。 ◎ 課題を解決するために、グループで協力しながら意見を出し合い、ミニボードに記入することができる。（観察・学習カルテ） ・ それぞれのグループ活動を観察し、良いアイデアや意見を出し合っていた場合に、それを全体に紹介し共有する。 ・ 技の例示を示す際に、技能を習得している生徒や、柔道部の生徒をスモールティーチャーとして関わらせながら、称賛する場を設定する。 ・ 各活動においてグループ間の距離や配置など場の設定を工夫し、安全面に配慮すると共に、T1、T2がお互いの立ち位置を考え、全体を観察できるように配慮する。 ・ 試合を行う際にルールや約束事を確認し、安全に配慮し公正な態度で審判ができるようにする。 ◎ 身に付けた技能を生かして、簡単な攻防を楽しむことができる。（観察） ☆ T1が男子グループ、T2が女子グループを中心に観察し、つまずきが見られる生徒やグループには、声をかけながらできるだけ生徒同士で学び合う場を設定する。 |
| まとめ 5分 | <p>7 整理運動をする。</p> <p>8 学習のまとめとして活動の反省と次時の課題を確認する。 ・整列（正座）・あいさつ（座礼）をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 整理運動をしながら、生徒の健康状態を把握し、確認と対応をする。 ・ 礼儀作法を尊重し、心が落ち着いた状態で授業を終え、次時の学習意欲が高まるようにする。 |